



uObserve[®] Version 6.1 リリースノート

リリースノート – 2025 年 12 月 10 日

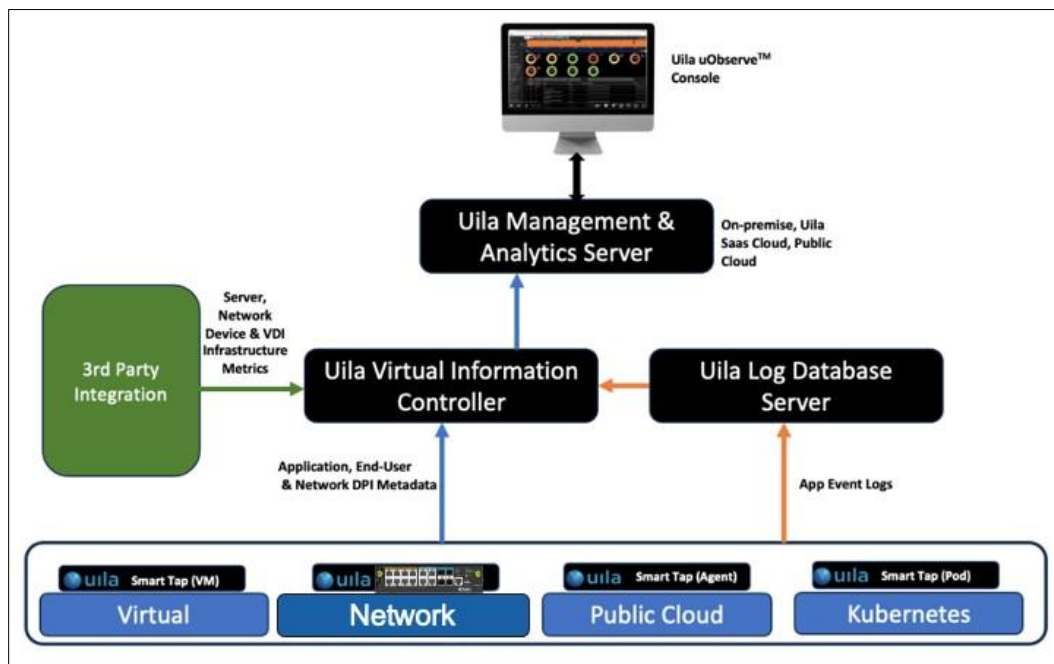
Table of Contents

新機能	2
機能強化	6

新機能

- **Cubro/Omnia50 パケットキャプチャアプライアンスのサポート**

Omnia50-vST はスタンドアロン型アプライアンスとして導入され、データセンター内やリモートサイトのネットワークリンクにタップ接続することで、ネットワークトラフィックを監視することができます。Omnia50-vST はディープパケットインスペクション (DPI) を使用して、ネットワークを流れるトラフィックから固有のアプリケーションやその属性を識別します。また、Omnia50-vST はアプリケーションの応答時間を測定し、パケットを保存することなくネットワーク性能データを収集するため、機密データが漏洩するリスクを排除します。

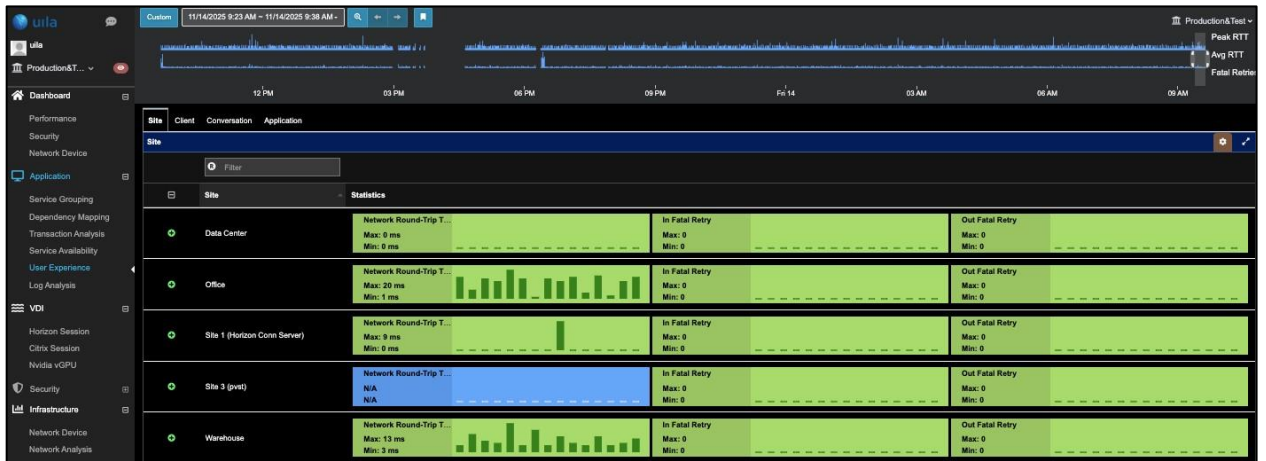


ユーザは、Omnia50 VST をプライベートクラウド向けの vST やパブリッククラウド向けの cVST と組み合わせ、単一の統合された監視ソリューションとして利用できます。

- **新しいエンドユーザエクスペリエンス UI の追加**

このリリースでは、ユーザは VIC 設定で「サイト」ロケーションを定義できるようになりました。

サイトを通過するネットワークトラフィックは、ラウンドトリップタイムや致命的リトライ (Fatal Retries) など、性能への影響を測定・分析されます。



「サイト」を定義するには:

設定 -> VIC へ行き、「ユーザエクスペリエンスを設置」まで下にスクロールし、「新規サイト」をクリックします。

サブネット名を入力し、「+」をクリックして新しいサブネットの情報を入力します。その後、「OK」をクリックします。

Site Config

Subnet Name: Site 1 (Horizon Conn Server)

Subnets

+ New Subnet

Subnets	Begin IP	End IP	Total IP	Actions
192.168.0.92/32	192.168.0.92	192.168.0.92	1	[Edit] [Delete]

Total: 1 records.

Collect Client Stat

[OK] [Cancel]

ここに、新しく定義されたサイトの例を示します。

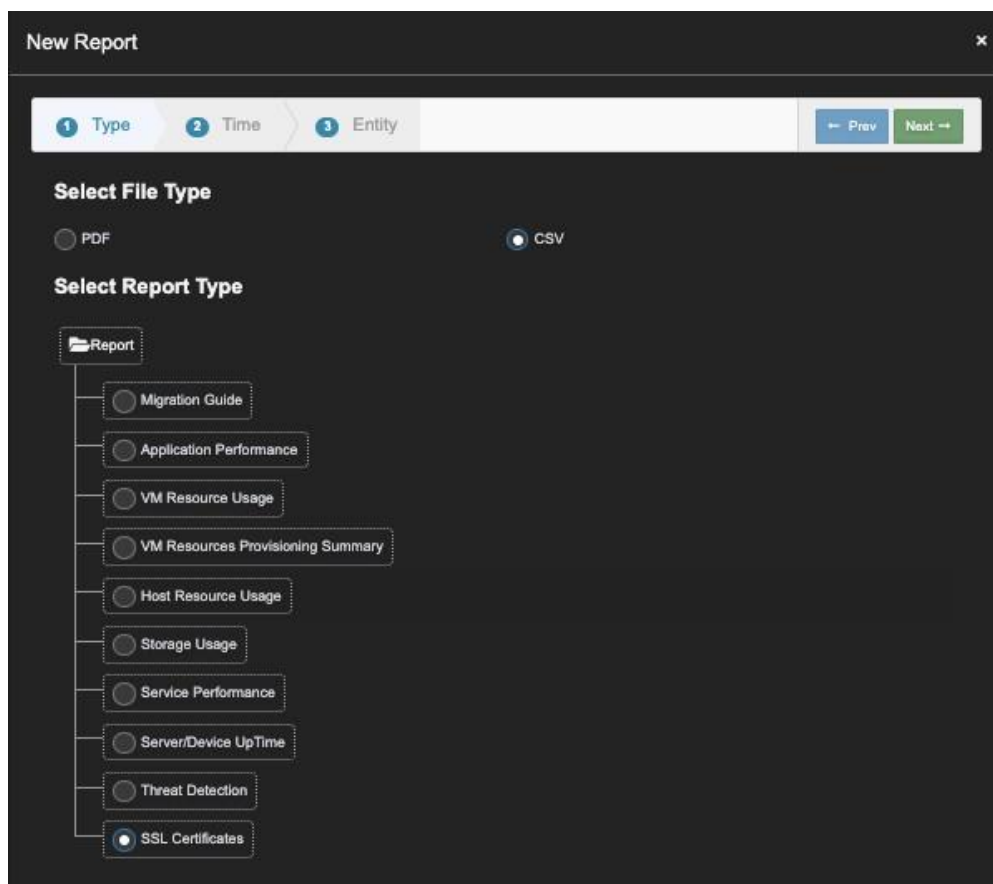


Site Name	Summary	Collect Client Stat	Actions
xforwardclient	13.89.202.123/32	✓	[Edit] [Delete]
Site 1 (Horizon Conn Server)	192.168.0.92/32	✓	[Edit] [Delete]
Site 2 (LDAP server)	192.168.0.201/32	✓	[Edit] [Delete]
Site 3 (privs)	20.0.0/14,20.43.0.0/14,20.189.0.0/14,192.168.2.0/24,140.82.0.0/14,23.86.0.0/14	✓	[Edit] [Delete]
Site 4 (usa)	10.20.6.219/24	✓	[Edit] [Delete]
Branch Office	192.168.1.83/24,192.168.0.101/32,192.168.0.38/32,192.168.0.194/32	✓	[Edit] [Delete]
Data Center	192.168.0.21/32,192.168.0.102/32	✓	[Edit] [Delete]
Azure US East	52.137.0.0/14,40.84.0.0/14,13.89.0.0/14,4.150.0.0/14	✓	[Edit] [Delete]
Office	192.168.0.0/24	✓	[Edit] [Delete]
Warehouse	192.168.1.0/24	✓	[Edit] [Delete]

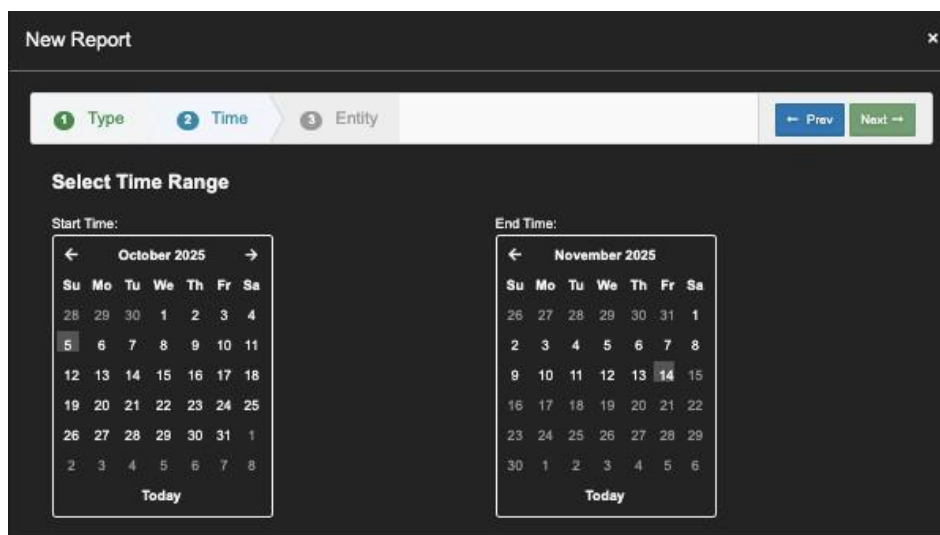
- **期限切れが近い SSL 証明書リストのレポート**

Uila uObserve は、まもなく有効期限を迎える SSL 証明書の一覧を表示できるようにレポート機能を拡張しました。このレポートにより、IT 部門は SSL 証明書の更新をプロアクティブに管理することができます。

新しいレポートを作成するには、新規レポート作成画面を開き、「CSV」にチェックを入れて、「次へ」をクリックします。

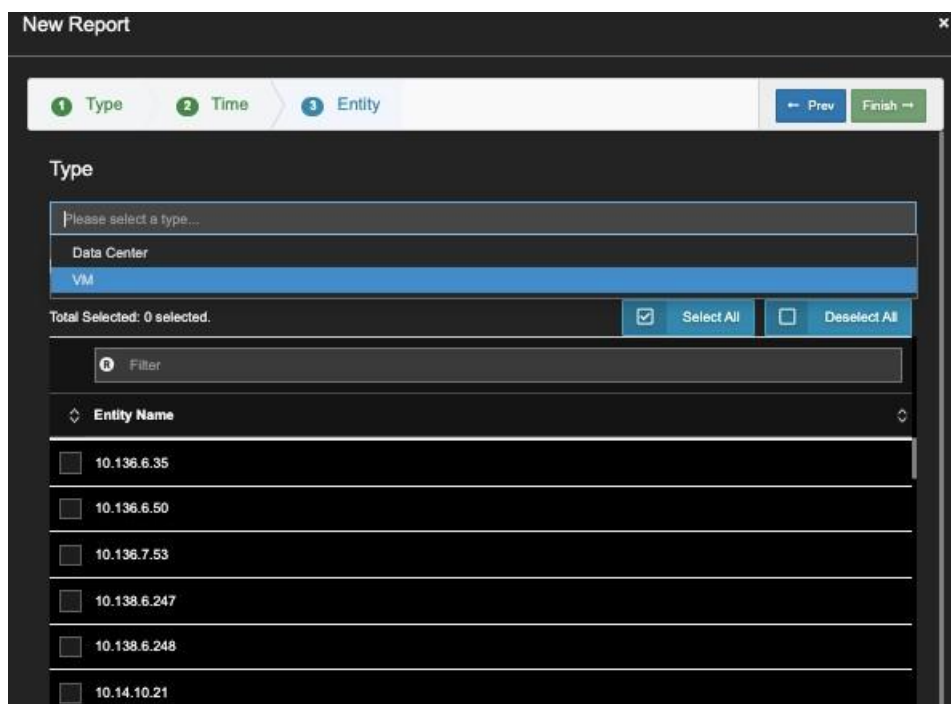


レポートの開始と終了の日付を選択して、「次へ」をクリックします。



「データセンター」を選択してすべての VM を選択する、または個別の VM を選択して、「Finish」をクリックします。

VM 名と SSL 証明書の失効日を示す CSV ファイルが生成されます。

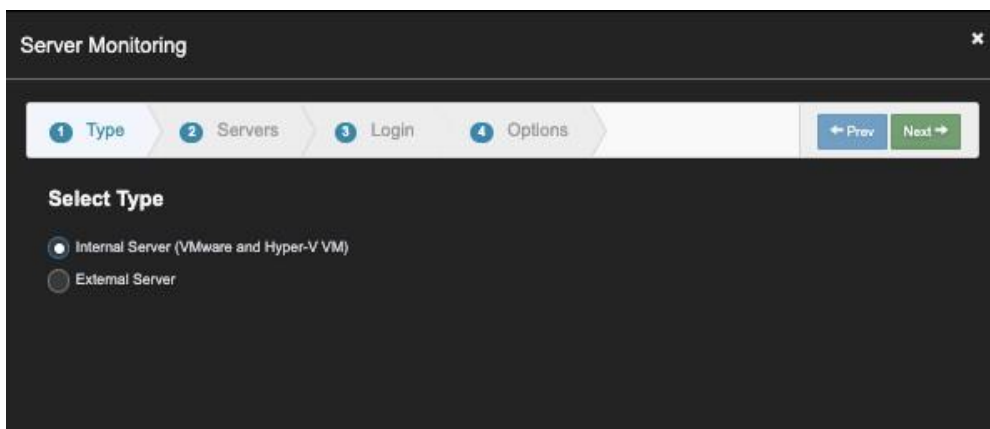


機能強化

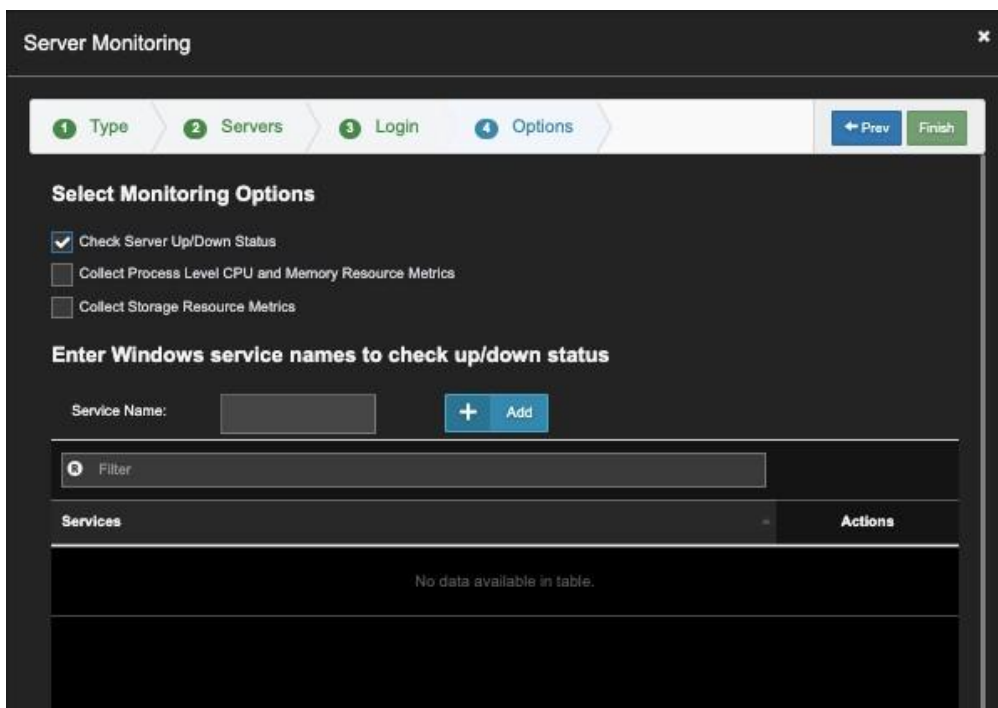
- **Hyper-V 向けのディスクキャパシティ監視の追加**

このリリースでは、Hyper-V 環境でディスクのキャパシティ使用率が表示できるようになりました。

設定 -> Server Monitoring を開き、「Manual Setup for Server Up/Down Monitoring and Process Level Monitoring」まで下にスクロールして、「Setup Servers」をクリックします。

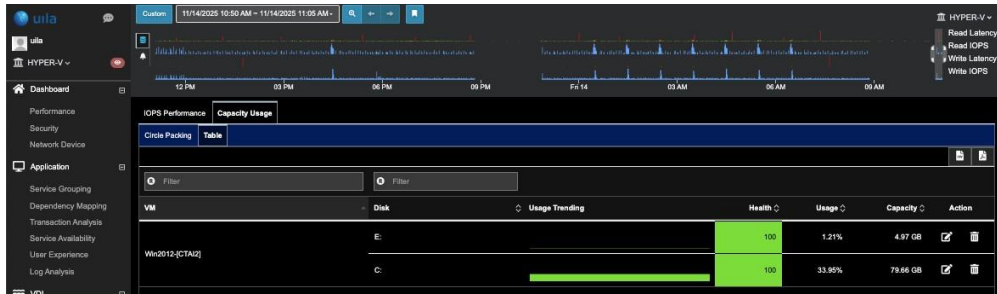


次の画面が表示されるまで「次へ」をクリックします。



「Collect Storage Resource Metrics」にチェックを入れて、「Finish」をクリックします。

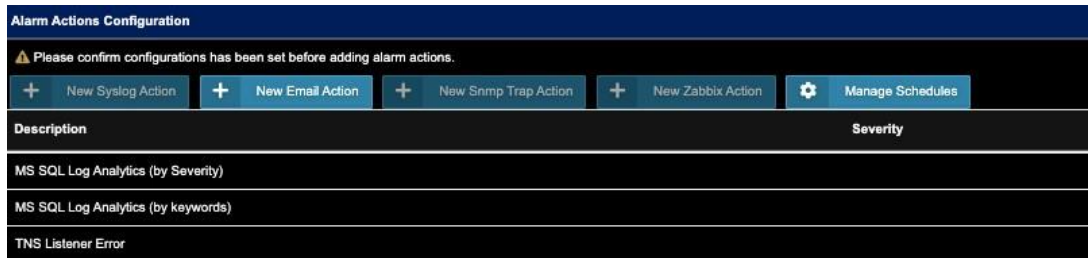
データが収集され、「Infrastructure / Storage Analysis」に表示されるまで、少なくとも 30 分お待ちください。



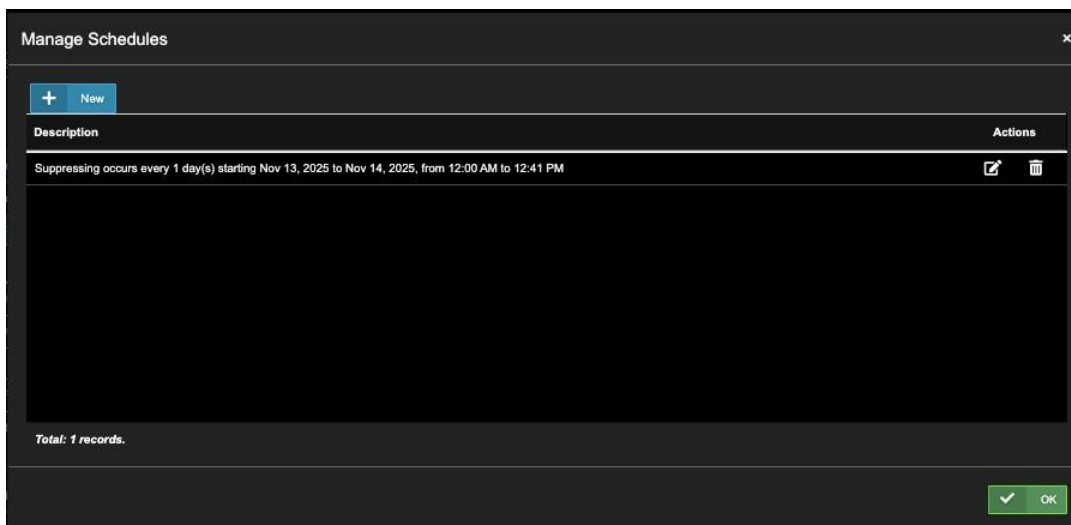
- 事前に選択した期間によるメールアラートの抑制

この新しいリリースでは、抑制期間（Suppression Period）を定義することで、メールアラートを抑制できるようになりました。

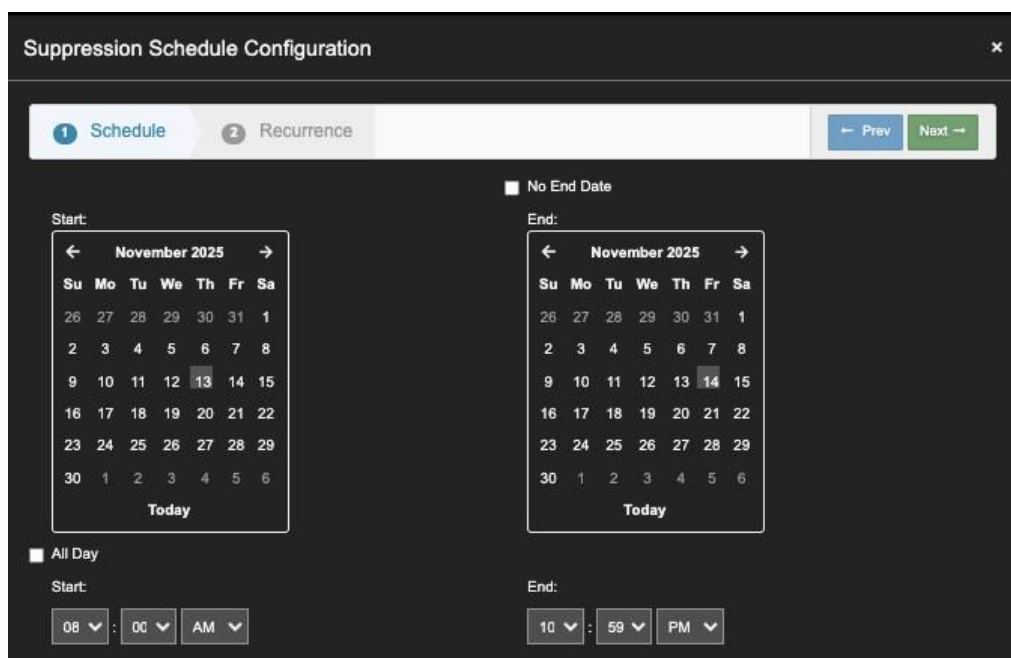
「アラームアクションの設置」メニューで「Manage Schedules」を選択します。



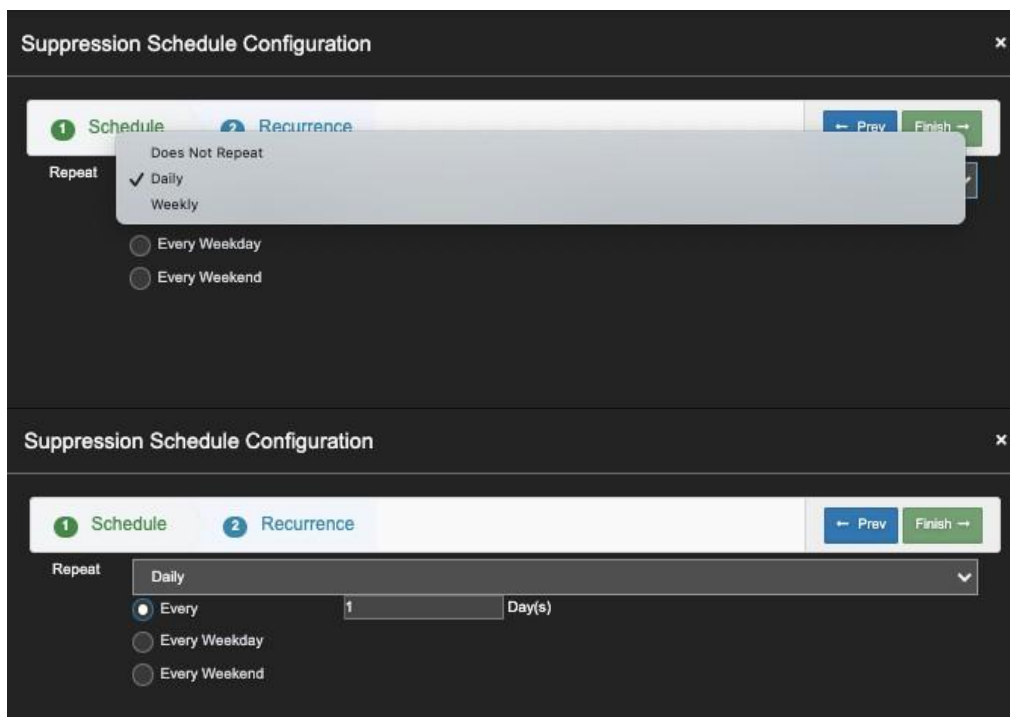
「新規」をクリックして、抑制期間を定義します。複数定義することができます。



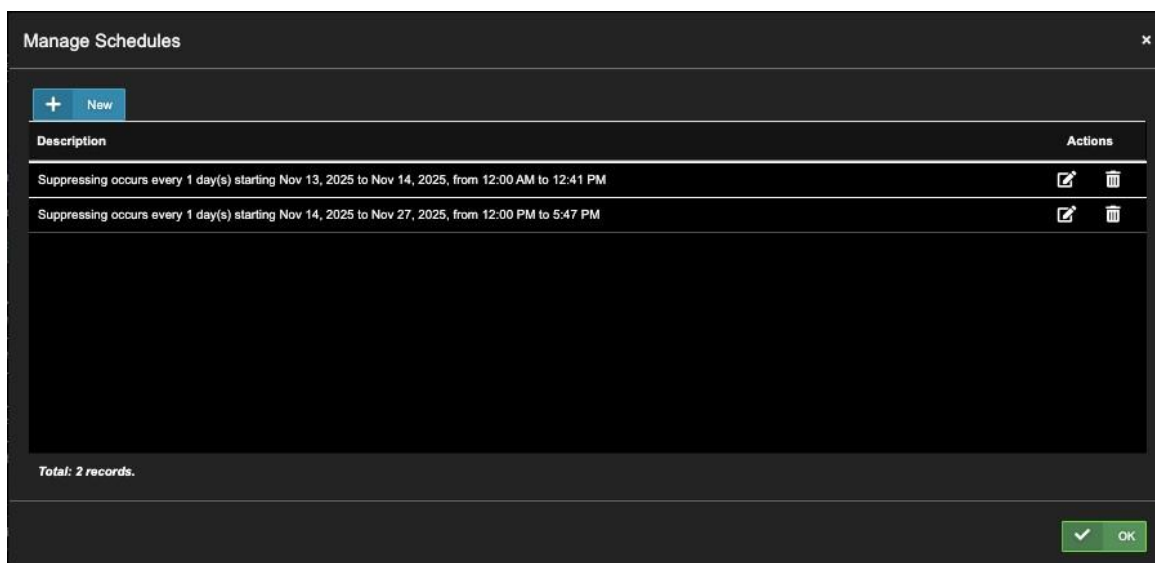
開始日と終了日、およびアラートを抑制する時間帯を入力します。



「Does Not Repeat」、「Daily」、「Weekly」のいずれかを選択します。



「Finish」をクリックします。

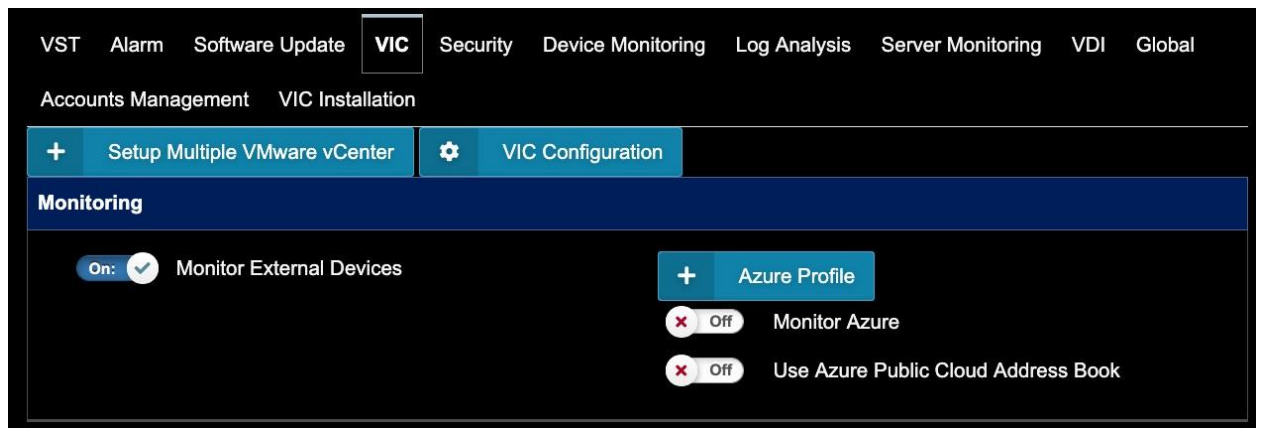


この抑制スケジュールを特定のメールアラート通知を抑制するためのオプションとして利用できます。

- **Cloud vIC を用いたクラウドプラットフォーム対応の強化**

- AVS (Azure VMware Solution)の vCenter トポロジー対応
- Azure のサーバーインフラ性能カウンター（CPU、メモリ、ストレージ）対応

設定->VIC で「Monitor Azure」を有効化します。



- **Uila SMTP 設定での TLS の有効化/無効化**